

看護に携わる人たちのためのパンフレット閲覧サイト“全国版”

nas nus ナス ナス ガイド de ガイド

第2号 年2回発行

FREE
ご自由にお取り下さい

nasnusガイドスタッフが選んだ

全国62病院情報

あなたは何色をえらぶ？

はかまコーディネーター

医療法人社団 祐和会 長尾クリニック

長尾Dr.コラム

生病老死に寄り添う

「看護師」さん



マンガで楽しく面接対策

友達とはいつも
どのような話をしていますか？

あなたはよくある質問にすぐ答えられますか？

意外に答えられない面接対策

医療用語を勉強しながら、卒業旅行費をGetしちゃおう！
今ならもれなくnasnusガイドオリジナルブックマーカープレゼント!!

にっぽんナースな旅

—クロスワードメディカル—



将来、どんな職場で働きたいですか？

看護学生のみなさん、こんにちは！僕は、兵庫県の尼崎という町の開業医です。外来診療の合間に、在宅患者さんを往診する毎日です。

さてみなさんは、一定の修行を終えて一人前の看護師になったら、どんな職場で働きたいですか？医者と同様、看護師さんの職場も実に多様です。病院勤務が一般的ですが、企業の健康管理室、開業医の外来や訪問看護など、色々あります。それぞれ、闘病中の患者さん、比較的元気な労働者、そして終末期の患者さんたちのお世話をします。

今の医学は驚くほど細分化しています。昔は内科・外科だけだったのが、内科なら、循環器科、消化器科、呼吸器科などに分かれました。さらに消化器科は胃、大腸、肝臓などに分かれ、循環器科も心臓と血管などに分かれました。細かな専門に分かれることは一見いいように聞こえますが、実は細分化とは退化の始まりともいえます。現在、一人の患者さんを総合的に診る「総合医療」や「総合医」の是非について、国のレベルで熱心に議論されています。国は「病氣」や「臓器」を診ることはできて、「病人」を人間として総合的に診るといふ当たり前のことがとても難しい時代になりました。特にDPC制度(包括制)の普及に伴い、総合病院は、少し皮肉な言い方をすれば、「病氣を総合的に診ることのできない病院」になるかもしれません。

専門看護か、総合看護か？

しかし「専門性」と「総合性」は、その志さえあれば充分両立し得ます。看護学は医療ほど専門分化されていません。しかし近い将来、医師や看護師は、「専門家」と「何でも屋」の2つに分かれると予想します。つまり「生死とあまり関係のない医療者」と「生死病老死にびったり寄り添う医療者」の2つに分かれることでしょう。まさに専門看護か、総合看護か？の時代です。

いま病院勤務医は、医療訴訟回避を前提とした事務的な説明に追われています。患者さんとゆっくり語らう時間をなかなか取れません。そんな中、「あの看護師さんの優しい一言で人生が変わった」と言われる患者さんが時折おられます。看護師さんの言葉は想像以上に重く、医師より患者さんの心に響きます。さらに在宅医療の現場では、訪問看護師さんの体を張った行為が患者さんやご家族に「感動」を与えます。私はいつも「便出し」に一心不乱に精を出す看護師さんを、尊敬の目で眺めています。また、亡くなっ

nasnusガイドdeガイド 特別コラムVol.2

生病老死に寄り添う 「看護師」さん



長尾クリニック(兵庫県尼崎市) 院長
長尾和宏

たばかりの患者さんを綺麗に着替えさせ、時にはお化粧まで施す看護師さんに、「医療の原点」を教えられる日々です。同時に不純な自分を恥じ入ります。

生病老死に寄り添う 看護師さん

在宅医療の世界では、患者さんが亡くなったあとも、まだ看護が続いています。と書けば、「えっ!?!」と思う人もおられるでしょう。四十九日や一周忌などの節目に患者宅を訪問し、ご家族の話に耳を傾けます。過ぎ去った思い出話に花が咲きます。「グリーフケア」といいます。これは業務ではなく、自発的な行為です。ご家族を慰安するだけでなく、自分たちの仕事の意義を再確認する機会でもあります。

当院では毎春、在宅患者さんらを招待して、近所の公園でお花見会を開催しています。看護師さんらは楽器を演奏し、患者さんとともに歌います。ポラントニア写真家に、沢山ツーショット写真を取ってもらい、あとで患者さんにプレゼントします。これは「フォトセラピー」と呼ばれますが、とにかく大変喜ばれます。1ヶ月後には、残念ながら「遺影」として飾られることもあります。そこには、訪問看護師さんと患者さんの笑顔が、背景の桜と見事に調和して写っています。

まさに「生病老死に寄り添う看護師さん」だなと、しばし感慨に耽りながら眺めています。

▲長尾和宏プロフィール▼

東京医科大学を卒業後、大阪大学第二内科に入局、勤務する。市立芦屋病院での勤務医時代に阪神大震災を経験、その後開業への意志が徐々に強まり、平成7年に兵庫県尼崎市に長尾クリニックを開業。
現在はクリニックでは珍しい複数医師体制をとり、常勤6名、非常勤2名の医師チームで予防医療から在宅医療まで年中無休で活動する。
昨年にはドクターズブログ「医師・医者人気ランキング」で1位となり、「町医者力」や「バンドラの箱を開けよう」など執筆も多く手掛ける。

